

2024年度 日本生物地理学会評議員会議事録

文責 蒲生康重

(日本生物地理学会庶務幹事)

2024年4月13日(土) 11:00~12:00 於 ZOOM会議

参加者: 浅川満彦、太田英利、春日井治、蒲生康重、幸塚久典、瀬能宏、鶴崎展巨、

細谷和海、本村浩之、森中定治、三中信宏、山根正気(12名)

委任状: 川勝正治、立原一憲、富川光(3名)

(評議員 17名中 参加 10名、欠席 6名(内委任状 3名)、退会 1名)

議事次第

1. 会長挨拶

2. 広報委員長 春日井治氏 辞任挨拶

3. 評議員会報告

①会則変更(資料1・学会ホームページ参照)

②各委員・幹事報告(資料1)(企画・庶務・広報・編集(和文・英文))

③会計報告・予算案承認(資料2・資料3)

4. 確認事項

①会則・細則の変更提案の承認決議

②次期大会(第79回)の開催日および形式

③論文誌の電子書籍化(ジャーナル化)に関する件。

5. その他

詳細

評議会に先立ち、議長を選出。庶務幹事 蒲生が自薦し承認を得る。(書記も兼任)

1. 会長挨拶

森中と申します。本日はお忙しい中、たくさんお集まりいただきましてありがとうございます。今日と明日と2日間、この学会の大会をやるということでございます。

昨年一年は前代未聞のことがございまして、年間で3回臨時評議委員会を行ったということは、私が学会長に就任してからもその前も記憶がありません。その甲斐もあって、会則・細則のさまざまな変更ができました。

市民シンポジウムというのは、もともとどういう趣旨でおこなわれてきたのか、生物学の学会としてふさわしいものかどうかということが昨年大会時に議題にあがったことが発端で、昨年、会員に対してアンケートも行われました。(アンケート結果では、市民シンポジウムの内容等に関して好意的会員が多く、市民シンポジウムを行う意義が、)非常にきっちりと正当化されました。(昨年の3回臨時評議委員会は、)様々なことがはっきりして良かったと思います。

大会は今日と明日2日間でございますけれども、充実してまた有意義な大会にしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

2. 広報委員長 春日井治氏 辞任挨拶

広報委員長をやっておりました春日井です。今までに会計監査とか会計幹事長もやらせてもらいました。昨年総会でも早く辞めたいと申し上げておりました。今回、横川さんが後任に任命されたことで喜んでおります。自分が75歳になったということと、世代交代が必要だと感じたので辞任を決断しました。

学会のホームページを（旧ホームページに変わり新しく）作成しました時に、多くの会員の方と知り合いになれ、交流もできたので、ありがたいと思っております。特に私は研究者でもないのに森中さんの要請もあって中枢に受け入れてもらって、そういう活動ができたということによかったと思います。書籍紹介の執筆も勧められて、20冊ばかり生物地理学に関係するような本を読み、ある程度生物の世界についても勉強できたと思えます。

事務局界のメンバーには、お世話になり、感謝しております。

嬉しかったこととして、運営していたホームページが、昨年、国会図書館の関西館からホームページをアップしてもよいかという問い合わせが来まして、会長が承認されました。国会図書館がつぶれない限り、（議事録等が）記録されていきますので、いろんな面で役に立つのではないかと。国会図書館から学会のホームページが保存に値するものとして承認を受けたという気がしました。それから昨年の（3回の評議会を経ての）会則・細則の審議成立ができ、それに貢献させていただきました。これからもいろいろ課題があるとは思いますが、今回の改定は皆さんの協力がなければできなかつたと思いますので、評議員の皆さんには特に感謝したいと思います。

これから二年間、評議員は務めます。お手伝いできることもあると思いますので、よろしくお願いします。どうもみなさんありがとうございました。

3.評議会報告

①会則変更（報告内容は、資料1・学会ホームページ参照）

②各委員・幹事報告（企画・庶務・広報・編集（和文・英文））（報告内容は、資料1参照）

報告内での発言・質疑応答

（企画委員報告内にて）

(評議員 以下 評) 会長と副会長に伺いたいですが、会長が主にされている市民シンポジウムも副会長が主も2日目の専門性の高いシンポジウム。市民シンポジウムの場合には。

少し生物地理学にふさわしいような、なんか絞り込みが必要だという意見もあった。会長は、生物学に基づくものだというので、会員に対してアンケート取ったら大体賛同の意向が多かったということで、市民シンポの継続ということは理解した。

ここで質問だが、私はなお今日のテーマも含めて、依然としてまだ生物学から生物地理学に対しての絞り込みが必要だとは思う。会長と副会長の間で、市民シンポジウムとシンポジウム、片や広い意味で、片や狭い意味で生物学や生物地理学に関しての企画が行われている。その辺のすみ分けの話し合い、テーマの決定において、二人の間でコミュニケーションあるいは相談されたかどうか

(副会長) 相談したことは一度ない。(シンポジウムの) テーマは全部私が決めている。

(会長) 私も副会長にどちらのテーマでどうするかそんな相談をしたことはない。ただ、最初の基本的な姿勢があって、(シンポジウムは) 副会長に任しているし、私は私でやってきたという経緯がある。

(評) 学会全体から考えたらバランスが取れてないでは? やっぱある程度のお互いのすみ分けというか、狙うところが違い。今回は全く相談なしで決めたということか?

(副会長) 今回だけでなく、これまでずっとそうしてきた。

(評) これやっぱり議論の余地があるのでは?

(副会長) はっきり言って、例えば私一人で20年近く学会のシンポジウムを企画してきたというのは、通常の学会ではありえないこと。

一人の人間がシンポジウムのテーマをずっとあの決め続けるっていうのは、これは無理だと思う。

(副会長) 一応副会長は企画というふうになっているけれども、どう考えても、新しい人に入って来ていただいて、新しいテーマを設定していただくというのがこれが本来あるべき姿だと、私自身はあの考えている。

(副会長) 会長だから、あの毎年の大会シンポジウムをやれというのは、これはあのおそらくどなたが考えても無理じゃないかと。特にそれを十年、20年続けるというのはありえない。そういうふうなことを、私自身はあのずっと感じてきた。

(評) 体制の問題は理解した。いずれせよ、もう少しいろいろな方の意見を吸い上げるような形で、相互に市民シンポジウムと、専門性のシンポジウムの中のすみ分けとていうか、大なり小なりの形で縮めていくという方法もあると思う。もう少しコミュニケーション取られた方が良くはないかと思う。ありがとうございました。

(会長) 一言だけ申し上げると、(会長就任当時)は、学会誌への投稿が年間に1報か2報しかなく雑誌も出せないという状況であった。論文の投稿もないし大会の発表のもないということで、私があこの市民シンポジウムっていうのをその生物学に限らず、ただし、あの政治集会みたいななんかのシュプレヒコールをやるとか、そういうことじゃなく、いろいろな分野の話題のシンポジウムもやるとで、実際、今までもジャーナリストだとか、哲学者、経済学者、生物学者、歌手と、そういう人にも入ってもらい、シンポジウムをして一般向けにやる。もう一方では生物学に関するシンポジウムをやるということで、この二本立てですずっとやって来た。

この学会も今は300ページもなるような投稿が増えてきたということで役には立ったというふうに理解をして意味があったと思う。ただ、市民シンポジウムの使命を終えたということもあるかもしれないが、私が学会長をやっているうちは市民シンポジウムはやっていきたいなというふうに思う。その後、市民シンポジウムがもうその時代というものを経

てですね、この生物地理学会で必要がないということになれば、それはなくなるということとも時期もあるだろうというふうに思う。

（編集委員報告内にて）

（和文誌編集委員長）和文誌の論文の投稿で、投稿3論文（うち受理済み2論文）だが、もう一つ鳥類の調査研究に関する論文の投稿があった。和文新編集委員長としては、非常にあの望ましい（内容）と思ったが、投稿者が投稿にふさわしいかどうか疑問に思っていた。そこで鳥類の専門家に見てもらった結果、データをもう少し積んでからの方がよいという意見をもらい、一旦投稿を取り下げてもらったという経緯があった。

新英文誌編集委員長 本村浩之氏 挨拶

鹿児島大学総合研究博物館で魚類の研究をしています。本村と申します。前回評議委員会の時に（前英文編集委員長の）陰山さんの後任が長年なかなか決まらずということで、次の編集長を務めさせていただいています。昨年末に引き継ぎを終えて今、完全にこちらの方で作業している状態です。よろしくお願いします。

③会計報告、予算案承認（報告内容は、資料2・資料3参照）

報告内での発言・質疑応答（本評議会の最後のあった会計に関する質疑もここに含める。

（評）編集費という項目があるが、これはどういうものに関わる経費なのか？他学会では、印刷費に全部入れてしまって、特に編集費というのはあまり見たことがない。

（会長）前任の英文編集委員長と就任時の約束で編成された費用である。前回の英文編集委員長の人選にも（前々任者が急逝されたこともあり）相当苦労し、無理をお願いしてや

ってもらった経緯がある。忙しい中、著者とのやり取りを別の人に頼んだ。その業務請負の費用がとして編集費という項目ができた。

(評) 編集費は査読者の謝金と考えてよいか？

(会長) 査読者への謝金ではない。掲載時の校正などの著者とのやり取りを前任の英文編集長が多忙でできないということで、その代わりに務めた人への謝金として支払った。

(評) 普通の学会ではこう編集委員がボランティアとしてやっていることだと思う。

(評) 魚類学会でも生物学的なことだけでなく文字の構成などそれにたけた人をお願いして、アルバイト的に謝金を支払しているというようなことは確かにあったと思う。

(評) 企画費というのは、市民シンポジウム等の演者に払う費用か？

(会長) そういう費用である。

(評) 今大会の演者への謝金は、2024 年度の予算ってということか？

(会長) 今回の予算から払われる。

(評) 前にも評議員会でも話したが、本学会の論文誌は、筆者が超過頁代を支払うような形になっていて、筆者負担で雑誌がようやく成り立っているというような状況である。これは非常に異常な雑誌だと思う。私は学会員になっているけども、事実上あの書けない、もう投稿ができない状態でもう本当やめようかなと真面目に思っている。その一方でこの編集費だとか(保管料もそうだが)、無駄な経費がすごく多い。こういう分をその印刷費に回して著者負担分というのを、ぜひ減らしていただきたいと思う。今回の予算については、どうこう言うつもりはないが、意見として申し上げる。

(会長) その意見は、非常によく理解できる。前の臨時評議会の時にも確かそういうご意見出されたと思う。

(会長) 編集費に関しては、先の 12 月、1 月に編集委員がと話し合い、一応編集費 30

万を計上したが、実際は減ると考えている。

(会長) 企画費に関しても、2023年度は多くの演者に参加してもらったが、今年は市民シンポ・シンポの二つ合わせても4名の演者にのみお願いして、謝金も減る。その分をこの繰越金にするか、超過頁代の助成金とするか、その辺をあらためて考えていきたいと思う。

(評) ぜひ、そういう方向であのよくお願いする。

(議長) 次年度以降の会計を見直して、超過頁代等の著者負担をなるべくないようにという、ご意見という受取でよいか？

(評) はい。(ほかにも賛同者あり)

以上のような質疑応答が行われた後、会計報告、予算案承認はなされた。

この他、会計幹事長と学会長の間で本会議の外で協議され、(今期会長任期中は) 予算案に関しては会長が作成するという事になった。

4.確認事項

①会則・細則の変更提案の承認決議

(議長) 今大会の学会会員総会(2024年4月13日17:30~)で会則変更の審議・承認するが、たぶん参加する人数は非常に少ないことが予想される。そこで承認して大丈夫か？

(評) 評議員には定足数が定められているが、総会には定められていない。会則上は問題ない考える。

(議長) それでは、今大会で予定通り会則変更の審議・承認を行う。

②次期大会（第79回）の開催日および形式

（会長）参加人数が多いということ、会員が全国的にいる組織なので。オンラインズームでの開催良いのでは？前回の評議委員会で意見あったように、地方でやりたいとかという意見が強ければ、地方開催も考えても良いと思うが、やっぱりできるだけ大勢の人が参加できるようにするというのがよいのでは？

（評）その一般発表の参加者の数が増えるという点でも良いが、おそらく遠方の方があのリアルでして、対面で来られるというようなことも、そろそろもう厳しくなっているのではないかと。大会もあと評議委員会もズームなどオンラインでやるのがよろしいのではないかと思う。他、反対意見がなかったため、第79回大会は以下の日時で開催予定となった。

第79回大会の開催日および形式

2025年4月12日（土）～13日（日）（予定）於 ZOOM 開催

③論文誌の電子書籍化（ジャーナル化）に関する件。

（議長）論文誌の電子書籍化の要望が8月臨時評議会にて提出され、その後審議がなかったと思うのでここで話し合いたい。

（副会長）J-STAGE を使って、バックナンバーに関してはすでに電子化を進めている。

（評）議長は電子ジャーナル化の話をしているのでは？

（議長）電子ジャーナル化に関してのつもりで発言した。言葉を間違えた。すみません。

改めて、電子ジャーナル化はアンケートを結果にも要望があったと記憶している。

(評) 電子ジャーナル化すれば、印刷費や送料などはスリム化できることは明確だが、体制を整備するにあたって、どのような手順ですすめるか。編集委員長を中心にして考えていただくしかないと思う。またこの学会誌は新種記載など新しい分類群も掲載するので、電子ジャーナル化すると J-STAGE への掲載だけでなく、ZooBank (動物の命名法的行為に関するデータベースで、動物命名法国際審議会が運営) に雑誌を登録すると同時に、新しい分類群の登録も進めていくことになる。この作業は編集サイドで行うことが学会の場合は一般的だと思う。ただしその作業量は多くはない。3 月末で勤めていた博物館でも何年か前に電子ジャーナル化して、新しい分類群の登録なども、編集委員になった人が行っている状況で、特に仕事が大変になったという話はなかった。

一つ大きな懸念があるのは、電子ジャーナル化することで会員が離れていかないかっていうところだけだと思う。私は、そこは大丈夫だっていうことが担保されていれば、電子ジャーナル化は難しくないと思う。

単に情報を取るだけとか、学会誌を投稿先の一つとしか見ていない会員が多ければ、電子ジャーナル化してもあまり大きな影響はないと思う。しかし、雑誌が手元に届くことでその会員にとって会員になるモチベーションが維持されているとすれば、電子ジャーナル化することで会員の何割かが離れていくかも知れないので、やはり慎重になった方がいいと思う。これは評議委員会もそうだが、編集委員も含め少し議論をしていった方がいい。

また。電子ジャーナル化することに対して、どのぐらいその会員がやめるか留まるかというところを 面倒くさいかもしれないが、会員に向けて意見を吸い上げるようなこともした方がいいと思う。

通常の学会だと、電子ジャーナル化した方がいいに決まっているという方向で動いているが、生物地理学会の場合は 会員の質と言いますか、考え方が普通の一般的な学会とは違う

面があると思う。この懸念があるので、電子ジャーナル化する方向は考えるにしても、編集委員の人が中心になって何をクリアしなきゃいけないのかっていうことを、一年くらいでも時間をかけて検討してもらうのが良いと思う。

(議長) この場で必ずしも結論を出すというような意見でなく、臨時評議会で出された議案を放置のような状態するのもいかなものかという気持ちで発言した。

この件に関しては、編集委員の方に負担かかるかもしれませんが、メール上でのやり取りなどをおして議論をし、必要に応じて会員に向けての何かしらの問いかけをするということを進めていくって形でよいか。多分この場では結論出ないと思う。

(評) 8月の臨時評議会で電子ジャーナル化に関して発言したのは私だと思う。実際のところ、英文誌(Biogeography)に投稿するために投稿規定を調べたら。ほんの二ページぐらいいを超えてくれても、超過頁代がかかることがわかり、この学会の論文誌には書けないなというふうに思った。印刷費も結構かかっているようなので電子ジャーナル化を考えてもらえないのかということを出言した記憶ある。電子化する場合には、やっぱりあの冊子として欲しいという人も、もちろんいると思うので、アンケートなど会員の意見をくみ取った取った上でないと多分進められないと思う。完全電子ジャーナル化しても体裁を整えるなどを印刷屋に依頼して編集費(印刷費)がゼロになるという話ではないと思うが、投稿料があまりかからないことを考慮すれば、電子ジャーナル化を希望する人っていうのは結構いるのはと思う。会員の意見をくみ取りつつ、投稿料が抑えられる形で進めていただけたらあの希望している。

(評) 電子ジャーナル化をどうするかという事は、時代の趨勢でもあり、当然そういうふうになっていくと思う。しかしながら英文誌(Biogeography)と和文誌(日本生物地理学会報)を同列で電子ジャーナル化するという前に、二つのその雑誌の違いについてもある程度

理解しておいた方が良くと思う。

私のような古くから会員の方にとっては、日本生物地理学会報ってというのは、それなりにオーソライズされていて紙媒体で保管されてきている。その中には、会員通信などの紙媒体でないと見ないような情報もあり、紙媒体の方が良いものもある。業績考えるなら、投稿しやすいようなもの。最初からワールドワイドになっている英文誌（Biogeography）の方は当然の電子化である。そういったような全体をまとめてというよりも、その辺の違いと歴史とオーソライズも考えた上で、意見聴取アンケート取るほうが良いと思う。

5. その他

（評）今回変更される細則では、大会の内容を大会の開催前、少なくとも一ヶ月前には評議員会に説明するという事になっている。今年度1年かけて議論して来年1月ぐらいに評議員会を開催し、大会の内容をどうしていくかとかですね。あの会長、副会長の間の意思疎通をどうしていくかとか、意見交換したらどうかと思う。

とにかくあの評議員会が年に一回で大会の直前にやられるというのでは非常に足りないと思う。アンケートを取る話が先ほどあったが、どんなアンケートを取るかでも相当議論が出てくると思うので、ぜひその評議員会の来年1月開催。1月じゃなくても良いがぜひ開催を決めていただきたい。日程などは後日、調整すればいいと思う。そうでないと毎年毎年同じ議論になってしまう。ぜひそういうふうに話を聞いただけでなく、先へ進めるような仕組みとして。評議員会を年に最低2回は開催を行うべきである。規程でもそうになっている。

（議長）評議員会を大会当日だけでなく、もう一回ぐらいどこかで行うべきであるということ

で了解した。

以上のような議論を行い 2024 年度評議員会は終了した。

(但し、議事録整理のため話の順番を多少入れ替えている。)

(議会中に指摘された誤字脱字等は、可能な範囲で修正した。)